

MCN REPORT

本学初！1年生対象特別講義

「三重を知ろう」開講

～知事も登壇～

Vol. 36
2018.8



「三重を知ろう」(6月27日)(1頁)



ゆびた祭り(7月4日)(5頁)

主な内容

特別講義「三重を知ろう」を開催しました	1
後援会から	2
連携協力協定病院紹介（済生会松阪総合病院）	3
教員インタビュー（清水真由美准教授）	4
さらなる発展と人材育成の充実に向けて	裏表紙



特別講義「三重を知ろう」を開催しました

6月27日（水）、1年生を対象とした特別講義「三重を知ろう」を初めて開講しました。

三重県の看護の質向上の拠点でもある本学に在学する学生には、県域の人々の暮らしとその背景にある文化をよく知ってもらいたいというコンセプトのもと、鈴木知事による講演や、中山間や海辺の地域に生活する方と地域医療に携わる方によるシンポジウムを開催しました。

1 特別講義の内容

① プログラム

① 9:30～10:30 講演：「三重県の文化と魅力」 講師：鈴木英敬 三重県知事

・県の医療・福祉政策や、県民への意識調査からみる三重県の住みやすさ、三重県の文化・歴史などをご講演頂きました。

② 10:40～12:00 シンポジウム：「三重県の暮らしと健康 ―生活者の視点から―」

座長	本学客員教授	奥野 正孝 氏
山間地域の暮らしと健康	大台町 保健師	西山 雅予 氏
	山里 民泊みくり	中江 美春 氏
海岸地域の暮らしと健康	鳥羽市 保健師	東川 麻子 氏
	鳥羽市答志島海女	中村 佳代子 氏

・「へき地」という言葉はネガティブな印象を与えがちだが、『地域医療は医療人を育てる』という観点で前向きに捉えてほしいという座長の言葉からシンポジウムがはじまりました。



② 受講者数

132名（学生93名、希望する教職員等39名）

2 受講者の声（抜粋）

① 講演：「三重県の文化と魅力」

- ・三重の医療、文化、問題に関する対策などを知ることができた。
- ・三重県民だが、三重県の良さを再確認でき、ぜひ、三重で働きたいと思った。
- ・保健師として働きたいと考えている中で、児童虐待防止対策における保健師の活動などに非常に興味を持てた。

② シンポジウム：「三重県の暮らしと健康 ―生活者の視点から―」

- ・山や海で住む方々の生の話から、少子高齢化の問題について考えさせられ、地域の特色を知ることができた。
- ・それぞれの地域の魅力が分かった。医療に関係するへき地ならではの話をもっと聞きたい。

③ 全体を通じて

- ・「へき地は誰かのために行くものではないし、我慢していくところでもない」という奥野さんの言葉が印象に残った。



3 今後に向けて ～ 三重県の特性に合った地域医療を担う人材育成のための新カリキュラムの検討 ～

学生が、三重県の文化や地域性になじみ、三重県の魅力を語れるようになることはもとより、三重県の保健医療ニーズに合った看護の担い手となるための、地域医療に係る新しいカリキュラムの構築に向けて、取り組みを進めていきます。

6月9日（土）、三重県立看護大学後援会の総会が開催され、30年度の事業計画や役員などが決定しました。引き続き、後援会には学生や本学へのさまざまなご支援をいただきます。

後援会長 就任のごあいさつ

大学と共に、全ての学生へのより良い学びの支えとなることを目指して

三重県立看護大学後援会長 たなか よしあき 田中 好昭



会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

三重県立看護大学は昨年度に開学20周年を迎え、後援会は経済的な理由により修学が困難な学生への支援として修学支援基金に寄付をしました。次の20年に向け、私も微力ながら本学の発展のため、皆様とともに活動して参りたいと存じます。

学生達は本学を卒業すると、いよいよ自らの力で社会に貢献していくこととなります。その最後の基盤となる大学での学びが、学生一人ひとりにとって生涯にわたる貴重な財産となることを願い、後援会は、大学と共に、全ての学生へのより良い学びの支えとなることを目指して参ります。

会員の皆様におかれましては、学生の自立を促進しながら、サポートを継続していく為のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

後援会の主な事業内容

- クラブ、サークル活動への助成
- 大学祭（夢緑祭）への助成
- ボランティア活動への助成
- 帰宅バスの運行委託（午後9時台）
- 交通不便地等における実習時のタクシー代助成
- 卒業アルバムの制作
- 謝恩会への助成
- 同窓会への助成



卒業アルバム

平成30年度 後援会役員一覧

役	職	氏 名
会	長	田中 好昭
副	会 長	奥村 康之
		森本 修
理	事	酒井 由美
		酒井 立子
		小宮 千歳
		楠 裕子
		坂本 静香
		東 美佳
		眞柄登紀子
監	事	大田智佳子
		上村 雅美
顧	問	菱沼 典子 (学長)
		三井 清輝 (事務局長)
事 務 局 長		山本 秀典 (事務局副局長)
事 務 局		辻 健一 (教務学生課長)
		梶 智恵

連携協力協定病院紹介

連携協力協定病院（社会福祉法人恩賜財団済生会松阪総合病院）

平成26年3月に、本学との協定を締結した済生会松阪総合病院から、看護部の理念と、理念実現のための取り組みをお教えいただきました。

「癒しの看護」を実践できる看護師の育成と、働きやすい職場環境を目指して

済生会は、明治年に明治天皇より150万円のご下賜を受け設立された日本最大の医療福祉機関です。現在「秋篠宮殿下」を総裁に推戴しております。

松阪済生会は昭和12年に設立されました。病院の理念は「救療済生の精神に基づいたここからの医療と福祉を提供します」です。生活困窮者に対しての無料定額診療も行っており、地域の皆様の健康と医療に貢献できるよう、日々取り組んでいます。また専門・認定看護師・保健師・他職種による無料出張講座も行っており、今年から松阪のショッピングセンターマームで月1回健康講座を開催します。

地域や介護施設などからもがん看護、緩和看護、スキンテア、感染管理など年間多くの要請があり、専門・認定看護師が出向いております。済生会は全国にあり、教育など共有した研修プログラムがあります。

近年、地震や水害、猛暑など様々な災害がある中、私たち済生会はネットワークの強みを生かし協力体制を積極的に行っています。松阪済生会病院の看護部の理念は「癒しの看護」です。癒しの看護を実践できる看護師の育成を目指し、集合研修と職場内研修を組み合わせた充実した研修プログラムを用意しています。

看護師のキャリアアップの支援体制整備も整っているため、是非とも私たちと一緒に働きませんか。

働きやすい職場環境を目指し、ワークライフバランスに力を入れております。

随時病院見学を行っております。お気軽にお電話いただきますよう、お待ちしております。

今後も看護学生の方々から選ばれる病院、看護部を目指し、三重県立看護大学との連携を深めていきたいと思っております。

（看護部長 鶴森 立美）



済生会松阪総合病院



新人野外研修のひとこま

病院情報

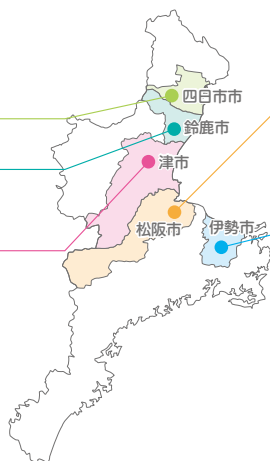
社会福祉法人恩賜財団 済生会松阪総合病院 [昭和12年1月開設]

- ❖ 病床数：一般病床430床
- ❖ 診療科目：内科、消化器内科、循環器内科、精神科、脳神経内科、小児科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、歯科、歯科口腔外科、緩和医療科、形成外科、乳腺外科、総合診療科（23科）
- ❖ 職員数：906人（うち看護師545人）（平成30年8月1日現在）

連携協力協定病院一覧

県内10病院

- 地方独立行政法人 三重県立総合医療センター
- 三重県厚生農業協同組合連合会 鈴鹿中央総合病院
- 三重県立こころの医療センター
- 独立行政法人国立病院機構 三重病院
- 三重県立一志病院



- 松阪市民病院
- 社会福祉法人恩賜財団 済生会松阪総合病院
- 三重県厚生農業協同組合連合会 松阪中央総合病院
- 日本赤十字社 伊勢赤十字病院
- 市立伊勢総合病院

教員インタビュー

しみず まゆみ 清水 真由美 准教授 インタビュー

平成 29 年 4 月から本学で国際看護学（領域：地域在宅看護学）を担当している清水真由美准教授に、先生の専門領域や学生へのアドバイスを聞きました。

「外国人住民や外国人患者さんに接する際、大事なことは、言葉だけでなく、まずは勇気を出して相手を知ろうという気持ちです」



Q1 先生は国際看護学を担当されていますが、関心を持ったきっかけや、これまでの活動をお教えてください

高校生当時、アフリカの飢餓問題がクローズアップされており強い衝撃を受け、国際協力に関心を持ちました。そして、看護師として JICA（国際協力機構）などで東南アジアや南米などに赴く経験をしました。1996 年の在ペルー日本大使公邸占拠事件の際に現地派遣スタッフとして、緊迫した状況のもと、テロなどへの危機管理について考えさせられました。

Q2 先生は現在どのような研究をされていますか

これまでは海外に住む人たちを対象とした研究が多かったのですが、現在は日本に住む外国人の健康にかかる研究をしています。国際看護学というと、被災した国や発展途上国への医療支援をイメージされる方も多いかもしれませんが、国内に住む外国人数は増えています。健康課題に国境はありません。

Q3 6月の海外短期研修の受け入れについて教えてください

見学をさせていただいた施設の職員の皆様やホームステイのご家族による心温まるおもてなし、そして本学の学生や教職員の関わりに、研修生は全員とても感銘を受けており、また是非日本に来たいと言っていました。

Q4 学生の方にアドバイスをお願いします

国内の地域や病院で外国人住民や外国人患者さんに接する機会もあると思います。そういった際、大事なことは、言葉だけではなく、まずは勇気を出して相手を知ろうという気持ちです。積極的にコミュニケーションを取ることです。

清水真由美 准教授 プロフィール

平成 27 年 7 月 東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻
博士後期課程 修了

国立国際医療研究センター病院部・国際医療協力局看護師、国立看護大学校准教授、三育学院大学看護学部非常勤講師、新宿区保健センター非常勤保健師を経て、平成 29 年 4 月より現職

清水真由美 准教授 担当科目

看護学部 「国際保健論」
「国際看護活動論」
「国際看護実習Ⅰ」
「国際看護実習Ⅱ」 （平成 30 年 4 月 1 日現在）

海外短期研修の受け入れを行いました（6月4日(月)～6月16日(土)）

交換留学協定に基づき、6月4日から13日間、マヒドン大学から3名、グラスゴー大学から2名の学生を研修生として受け入れました。研修生5名は、本学での講義や県内8施設の見学により日本の看護や保健医療について学びました。施設見学に同行した本学の学生からも、「医療英語を覚える機会になった」「初めて知ることもあり勉強になった」との声が聞かれました。

研修期間中、研修生は本学学生の家庭等にホームステイし、お互いの文化を知る良い機会となりました。また、本学国際交流サークル主催の歓迎会や文化視察などを通じて、学生同士の親交も深まりました。



大学の出来事

大学の出来事

第21回夢緑祭

6月9日(土)、第21回夢緑祭を開催しました。

事前の夢緑祭実行委員会を中心とした企画立案や入念な準備のもと、当日は多くの模擬店や、子どもたちであふれかえった学生ホールでのゲーム、そして、夢緑祭を最大に盛りあげたステージなどにより、好評のうちに実施することができました。



6月9日(土)

ゆびた祭り

7月4日(水)、「ゆびた祭り」を開催しました。

地域の子どものたちやその保護者など多くの方々に来訪いただきました。子ども向けイベントとして、ストラックアウト、ボーリング、フーセンヨーヨー釣り、輪投げ、折り紙・バルーンなどを行いました。また、唐揚げ、焼きそば、たこ焼き、焼き鳥、ジュースなど、夏祭り屋台をイメージした食べ物の販売で、祭りの雰囲気を楽しんでいただきました。



7月4日(水)

オープンキャンパス

7月28日(土)、「みかんだいオープンキャンパス2018」を開催しました。

当日は、600名以上の方にご参加いただきました。

学生生活について、本学学生に直接質問できる「学生相談会」や自分の進路への不安や悩みを相談する「未来面談」、その他「入試問題の解説」や「看護体験」などが行われ、大盛況のうちに終了しました。



7月28日(土)

今後の主な行事 (平成30年度)

9月8日(土)	教育懇談会
18日(火)	県内病院等看護管理者意見交換会
10月8日(月)	後期授業開始
11月11日(日)	第2回公開講座
12月24日(月)	卒業研究発表会
1月12日(土)	第3回公開講座
2月15日(金)	認定看護師教育課程「認知症看護」修了式
3月16日(土)	卒業式・修了式

※日程は予定を含んでおり、変更となる場合があります。



※写真は昨年度の様子

教育懇談会



卒業式・修了式

学歌も知ろう! / 平成30年度公開講座

本学では、在校生はじめ学内関係者に、さらに愛校心を高めてもらうきっかけとして、特別講義開講の6月27日以降、毎日昼休み（3限目始業の5分前）に校内で学歌を流しています。

学歌が作られた経緯等について、篠木優果さん（3年生）が作成したレポートの一部を紹介します。

● 作られた経緯 ●

「オデコのコイツ」「チコタン」など昭和の名作合唱曲の作詞者であり、同時にNHK名古屋制作のテレビ番組「中学生日記」の初期の頃に長く台本を書いていた蓬萊先生が名古屋のNHK関係者の方から学歌の作詞を依頼されました。そして、作曲はその少し前に別の仕事を一緒にしていた愛知県出身の吉川先生を指名し、学歌を作ることになりました。

● 詩のイメージ ●

創設時、丘を切り開いた荒れ地のような土地に新校舎が建築されていて、まさに「三重の野」でした。いのちを見守る気高いところでしたが、「野」のようなこの地から羽ばたいてほしいと願って書かれたそうです。

● 曲のイメージ ●

看護という気高く、厳しい仕事について学ぶため、ひととき安らげるような曲想にしたいという思いがあったそうです。8分の6拍子は、校歌としては珍しく、流麗な曲想、清水がながれるようなイメージで作られたそうです。

なお、篠木さんは、作曲された吉川先生と直接やりとりしてレポートを作成されたとのこと。

学歌を聴きたくなった方、三重県立看護大学ホームページで聴けますのでぜひご参照ください。

本学ホームページ > 大学案内 > 学章の由来・学歌

三重県立看護大学学歌

作詞／蓬萊泰三 作曲・編曲／吉川和夫

- | | |
|---|--|
| 1 草もえる 学びの丘に いま つどう 若きころ
友愛のきずな あらたに ともにはげむ願いは ひとつ
三重の野に いのち 高鳴れ 呼びかわすいのち 高鳴れ | 3 はれわたる 光の丘に いま つどう 清きころ
共生のちかい あらたに ともに歩む願いは ひとつ
三重の野に いのち みなぎれ むつみ合ういのち みなぎれ |
| 2 風うたう のぞみの丘に いま つどう 熱きころ
向学の思い あらたに ともにきそう願いは ひとつ
三重の野に いのち 輝け ひびき合ういのち 輝け | むつみ合ういのち みなぎれ |

平成30年度公開講座

第1回公開講座を開催しました

6月30日(土)に、「**健幸華齢な生き方・老い方** ～食・運動・内服薬に関する情報の重要性～」をテーマに第1回公開講座を開催しました。

講師の田中喜代次先生から、310人の参加者に、これまでの豊富な健康支援に基づく様々なデータをもとにした「**健幸華齢な**」生き方・老い方の具体策を提案いただきました。

参加者からは、「非常に参考になった」「これからの人生に活かしたい」といった声を頂きました。



第2回以降の公開講座のお知らせ

現在の次の予定で進めています。テーマ等詳細が決まり次第ホームページ等でご案内します。

- 第2回公開講座：11/11(日) 講師：高尾美穂氏（産婦人科専門医・婦人科スポーツドクター）
- 第3回公開講座：1/12(土) 講師：櫻井孝氏（国立長寿医療研究センターもの忘れセンター長）

※現時点の予定のため、変更となる場合があります。



さらなる発展と人材育成の充実に向けて ～学生の修学支援のための基金への寄附の報告とお願い～

本学では開学20周年を契機に学生の修学支援に活用するための基金を創設しましたところ、多くの皆さまからご厚志を賜っております。

- ◆平成30年8月末現在の状況
- 寄附総額 5,581,000円
- 寄附者数 個人 46人／法人等 12団体

～ありがとうございました～ 修学支援基金に寄附頂いた方々

(平成30年8月末日迄領収分のうち、公表をご了解いただいた方で未掲載分のみ掲載。寄附領収順、敬称略)

個人：前原 澄子 団体・法人：社会医療法人機内会岡波看護専門学校

この基金は、「みかん大進学支援給付金」の財源として、三重県の保健・医療に貢献する意欲があり、本学への進学
の目的及び意志が明確であるにもかかわらず、経済的理由により進学が困難な人への入学時の給付金に充てられます。
継続的に安定した学生への支援を可能とするため、引き続き、皆さまの格別の御協力と御支援をお願い申し上げます。

お問い合わせ先 寄附に関すること：事務局企画総務課、給付金に関すること：事務局教務学生課



本学マスコットキャラクター「みかんちゃん」

三重県立看護大学の略「三看大（みかんだい）」の「みかん」に学生
たちが持つ「優しさ」をイメージした大学キャラクターです。平成
21年の法人化を機に学内からの公募で選ばれ活躍しています。



学章の由来

看護のイメージを高めてほしいという願いと、未来に向かって
成長していく若者の姿を大小2つの翼とナースの「N」をモチーフ
にして表現しました。



「大学基準協会」の定める「大学基準」に
「適合」と認定されています。

認定マークとは…法で定められた認証評価機関である大学基準
協会の大学評価を受けて認定された大学に交付されたものであり、
その大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして
社会に対して大学の質を保証していることを示すシンボルです。



公立大学法人
三重県立看護大学

〒514-0116
三重県津市夢が丘1丁目1番地1
TEL 059-233-5600(代)
FAX 059-233-5666
<http://www.mcn.ac.jp/>



広告

看護部の理念は
“手で触れて、みて、考える看護の実践”
です



中途採用・パート採用も募集しています。お気軽にご連絡ください

伊賀市立上野総合市民病院

伊賀市四十九町 831 番地 担当：看護部
TEL：0595-24-1111 FAX：0595-24-1565
HP：https://www.cgh-iga.jp/
E-mail：kango@iga-med.jp



広告

私たちは、すべての人に
寄り添うことを大切にした看護
を提供します。



見学随時受付中
ご連絡お待ちしております。

JA三重厚生連 **鈴鹿中央総合病院**
〒513-8630 三重県鈴鹿市安塚町山之花1275-53
TEL 059-382-1311 (代表) E-mail kango@sch.miekosei.or.jp